



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

2004年9月1日発行 第39号 発行・横浜スペイン協会事務局

2004年定時総会報告

2004年度の定時総会は5月16日（日）午後2時から、横浜駅西口の「CIAL」7階「ニュー・ホッペン」で42名の参加者で開催されました。

下山会長の挨拶の後、司会の廣瀬事務局長より議事についての簡単な説明があり、規約に則り会長を議長に選出し議事に入りました。2003年度の活動報告が飯塚副会長から、決算報告が齋藤副会長からあり、引き続き井口監査より監査結果の報告がありました。

続いて2004年度の事業計画を飯塚副会長、予算を齋藤副会長より説明があり、各議題について衆議を諮ったところ承認されました。

今年度は役員の改選の年でもあり、前もって会員には自薦、他薦をお願いしていましたところ、37名の方が推挙されました。それぞれの方に諾否をお伺いいたしましたところ、21名の役員候補者が決まり異議無く承認されました。



▲総会風景



▲ギターで盛り上げるホルへさん

来年は協会創立15周年にあたり、円滑な運営を促し、時代に即したものにしよう規約を見直すことが議題として提案されました。理事会で検討を重ねた改正案を飯塚副会長より説明があり、これも異議無く承認されました。

総会後には、賛助会員である日西商事からこの日の為に提供して頂いた各種のスペインワインのテイastingと、ホルへさんのギターに合わせて歌ったり、食べたり飲んだり楽しく過ごしました。

（会員の方は、既にお送りしてある総会の議案書及び新しい規約をご参照下さい。）

新役員紹介

上記の総会において、下記の方々が役員として選任されました。なお、本年度から特別理事の制度が設けられ、池本、西丸の両氏が選出されました（敬称略 理事は50音順）。

会 長	下山 貞明	留任	理 事	久安 邦明	新任（特別プロジェクト担当）
副 会 長	齋藤由基彦	留任（財務担当）	理 事	三崎 輝夫	留任（特別プロジェクト担当）
副 会 長	飯塚 劭	留任（事務局担当）	理 事	宮崎 紗伎	留任（対ロング渉外担当）
事務局長	廣瀬 勝亮	留任	理 事	安田 秀之	留任（文化講座担当）
理 事	上野 淑子	留任（文化講座担当）	理 事	山崎 宗城	新任（スペイン・サロン担当）
理 事	鎌田 暁子	留任（特別プロジェクト担当）	理 事	渡邊 昭夫	留任（広報担当）
理 事	岡田 重男	新任（文化講座担当）	特別理事	池本 三郎	
理 事	千葉 博子	新任（スペイン・サロン担当）	特別理事	西丸 與一	
理 事	寺原 瑛子	留任（文化講座総合担当）	監 事	井口 孝利	留任
理 事	内藤 佳子	新任（特別プロジェクト担当）	監 事	小田 泰治	留任
理 事	根岸 清永	新任（特別プロジェクト担当）			

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

●2004年10月度例会

日 時：10月23日（土） 14：00～15：30

場 所：横浜市民活動支援センター 横浜市中区桜木町1-1-56

みなとみらい21クリーンセンター内 TEL 045-223-2666 FAX 045-223-2888

講 師：渡部哲郎氏

島根大学文理学部卒。上智大学大学院文学研究科博士課程修了。常葉学園大学外国語学部助教授、ビルバオのデウスト大学客員教授を経て、現在横浜商科大学商学部教授。著書に「バスクもう一つのスペイン」「新スペイン内戦史」「スペイン賛歌」「バスクとバスク人」など。

テーマ：「バスクとバスク人」

バスク人の“謎”を歴史的、社会的な背景から解明します。小さな地域、少数者が周辺の大きな国を動かし、世界的な規模でネットワークを形成する原動力を解説します。

参加費：会員 1,000円 非会員 1,200円（茶菓代を含む）

● 2004年12月度例会

日 時：12月11日（土）

場 所：時間も含め追ってご案内いたします。

講 師：立石博高氏

東京外国語大学外国語学部卒。東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了。東京外国語大学外国語学部教授。専門はスペイン近代史。1971年より2年間フランコ体制末期に在スペイン大使館勤務。著書に「スペイン・ポルトガル史」（山川出版社）、「鏡の中のヨーロッパ歪められた過去」訳（平凡社）など。

テーマ：「スペインと二つのコメモレーシオンーイサベル女王没500周年とドンキホーテ400周年」

参加費：会員 1,000円 非会員 1,200円（茶菓代を含む）

担 当／澤田真人

千葉博子

広瀬孝子

山崎宗城

スペインのいろいろを楽しむスペイン・サロン

●4月のスペイン・サロン「今、スペイン映画が面白い」松本 益代さん

日本で紹介されるさまざまな外国映画の中にあってスペイン映画は1980年代以降スペイン映画祭として集中的に紹介されるだけでなく、単発的にも優れた話題の作品がここ数年我が国で上映されてきております。その意味でスペインの映画は国際的にみてもレベルの高いものとして、評価されていると考えられます。

今回のスペイン・サロンは当協会会員でスペイン映画をよく識る松本益代さんにスペイン内戦（1936～1939）、それに続くフランコ独裁の時代（～1975）とその後の時期に活躍した監督作品の中から、とくに「アンダルシアの犬」のルイス・ブニュエル、「血の婚礼」のカルロス・サウラ、「ミツバチのささやき」「エル・スール」のビクトル・エリセ、「トーク・トゥ・ハー」のペドロ・アルモドバル監督を中心に、1977年に廃止になったフランコ政権下の検閲制度や1947年開設の国立映画研究所でその後の1962年に改編された国立映画学校出身の監督のこと、俳優のこと、その他の監督と作品、ラテンアメリカ諸国の話題作、さらにはこれから公開予定のスペイン映画までを松本さんの集めてこられた作品カタログも提示しながら話をさせていただきます。

またそれらのフィルムのビデオも20本ほど用意され、希望者に貸し出していただきました。出席者からもスペイン滞在中に通った映画館での経験談、映画製作上の技術的な時代の変遷などについて補足のコメントもあり、スペインの映画についての一端を知ることが出来ました。（山崎 宗城）



▲スペイン映画について
話す松本さん

●7月のスペイン・サロン「神は細部に宿るースペイン静物画の世界」雪山 行二さん（横浜美術館館長）

静物をモチーフとして描かれた絵画の歴史は古くは古代ローマの漆喰画・フレスコ画に見られるものの、その後の絵画史の主題が宗教画であったことから、人物や自然がリアリティーを以て描かれ始めたのは15世紀を待たねばならなかった。雪山さんは静物をモチーフとする静物画がその価値を見いだした1600年前後の

時代にトレド県オルガスで生まれた画家ファン・サンチェス・コターン（1560～1627年）に基点を置きながら、17世紀に静物画のスペインの特色をオランダ、フランドル、イタリアとの関わりと、その違いについて、スライドで絵を映しながら話されました。その中でスペインの特徴として静物モチーフによってのみ構成される静物画が登場する一方「ボデゴン」と呼ばれるネーデルランド絵画に起源をもつ静物表現に重点を置いた風俗画、時には新約聖書にからむ作品が不離の関係を保ちながら発展したことを指摘しました。スペイン



▲スライドを使って説明する雪山さんと、話しに聞いている参加者

の静物画は、その後マドリードの上流社会に顧客を持ったバン・デル・アメン、アンダルシア地方のブラス・デ・レデスマ、セビージャでは、ベラスケスの一連のボデゴン、とりわけ「マルタとマリアの家のキリスト」画にみる静物表現、目の前の物体を力強い筆致で描いたフランシスコ・デ・スルバラン、ムリーリョの「天使たちの厨房」と「蚤をとる少年」の添景として描かれた陶器や果物、最後に17世紀後半のセビージャ派を代表するファン・デ・バルデス・レアルの「ヴァニタス画」で締めくくりました。（山崎 宗城）

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪♪ 「スペイン音楽サロン」 へのお誘い ♪♪

◆第14回 9月14日（火） 13:30～15:30 県民サポートセンター
サルスエラ「早咲きの女」（一幕）ヒメーネス（1854～1923）

舞台がグラナダのこの「サルスエラ」はアンダルシア出身の作曲家ヒメーネスの素晴らしい名曲です。浜田滋郎さんが「早咲きの女」と名訳しています。

2005年はドン・キホーテ初版が刊行されてから、ちょうど400年目にあたる記念の年。そこで2004年最後のスペイン音楽サロンから、5回に亘りドン・キホーテをテーマにした音楽を聴きます。多種多様な音楽で表現されたドン・キホーテに出会えます。興味ありませんか？

◆第15回 11月9日（火） 13:30～15:30 安田宅

オペラ「ペドロ親方の人形芝居」（一幕） マヌエル・デ・ファリャ（1876～1946）

☆セルバンテスのドン・キホーテのなかの一挿話を使ったオペラ。日本語字幕のついたレーザー・ディスクでファリャの傑作オペラを、スペイン・ワインを飲みながら楽しみましょう。

☆申込み／問合せ先：安田秀之

◆第16回2005年3月8日～第19回11月8日のご案内はAIYES通信40号（2005年1月1日発行）、協会公式ホームページなどでお知らせします。ご期待下さい。

安田さんのライフワーク

「イベリアの音楽」完成！

会員5名に抽選でプレゼント！

理事の安田秀之さんはスペイン音楽に造詣が深く、当協会で「スペイン音楽サロン」の講師をされています。その安田さんがライフワークとされていた、ご自身がお持ちだったレコード、音楽書、楽譜のインデックスを「イベリアの音楽」スペイン・ポルトガル語圏音楽作品集成として纏められ、音楽之友社より上梓しました。

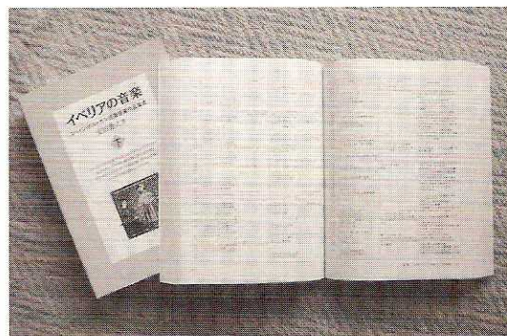
本書はB5判上下2巻で、上巻1,242ページ、下巻1,110ページと膨大な労作です。これを、特に当協会員の方5名に、安田さんより直接プレゼントされます（希望者多数の場合は抽選になります）。

ご希望の方は、下記までハガキに「イベリアの音楽」希望と書いて、住所、氏名、電話番号、あればFAX番号、およびE-Mailアドレスを明記し、9月20日（月）必着でお申し込みください。

なお、本書に収録されたレコード、CD、楽譜等は東京・四谷の上智大学にあるイスパニア研究センターに寄贈され、誰でも利用できるようになっています。

● プレゼント希望申込先：

* このプレゼントについての問い合わせには応じることができませんので、ご了承ください。



▲安田さんの労作「イベリアの音楽」

たのしい「絵画教室」

旅行の楽しみは、行ったところの歴史や文化に直接触れることができるものといえましょう。そして、印象に残る風景は写真に撮る。しかし自分の手でその風景を残すことは、さらに旅を楽しいものにします。

絵画教室はそんな思いを込めて、真鶴半島の海に近い島津画伯のアトリエで、時には近くの海岸に出かけたりしながら、楽しく開催されています。

島津画伯は当協会会員でスペインの詩情を描く画家として、個展ではいつもスペイン大使館の後援を得ている画家です。

心に残るスペインへの旅を考えているあなた、ぜひわたしたちと一緒に親切的な指導を受けてみませんか。

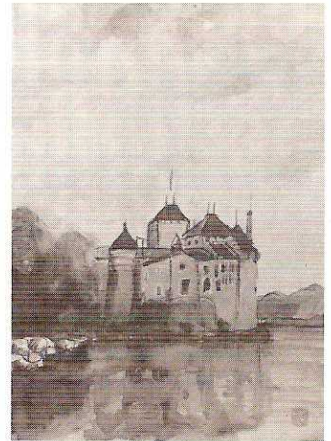
絵を描くのが初めての方、すでに描かれていてさらにブラッシュアップを考えておられる方、どなたでも、多くの方の参加を受け付けています。水彩・油彩・アクリル、パステルなど、ご自身のやってみたい手法で自由に習うことができます。

◆9月以降の開催予定日（毎月原則として第1土曜日に開催します）

・9月4日（土） ・10月2日（土） ・11月6日（土） ・12月4日（土）

◆問合せ先：西川貞子

◆絵画教室参加費：1回、会員2,000円、非会員2,500円



▲夕暮れの古城
(西川 貞子画)

▶▶▶ スペイン語教室だより ◀◀◀

I. スペイン語 作文会話 クラス“ロメロ”発足

昨年4月から始めた作文クラス「イビスコ」は1年間が経過し、本年10月1日から“ロメロ”（Romero：ローズマリー）という名前に変えて装いも新たにスタートします。

これは作文50%、読む・話す各25%にしてスペイン語の勉強に必要な語彙力、会話力アップの為にバランスを持たせる内容にしていきたいとのJoan講師のアイデアに基づいたものです。是非、皆さまのご参加を期待しています。また、お知り合いの方にもご紹介下さい。

II. スペイン語教室一覧表

10月から下表の合計11クラスでスタートします。興味のある方は是非一度教室をのぞいて見て下さい。

教室名	内 容	講 師	開講日	時 間
ロ サ	会話・ABC入門	Emilio Olmos	水曜日	13：30 ～ 15：00
アマポーラ	会話・初級Ⅰ	Emilio Olmos	月曜日	10：30 ～ 12：00
カメリア	会話・初級Ⅱ	Emilio Olmos	月曜日	13：00 ～ 14：30
アスセナ	会話・中級Ⅰ	Emilio Olmos	月曜日	14：45 ～ 16：15
ロメロ	作文会話・中級	Joan Dorado	月曜日	10：30 ～ 12：00
マルガリタ	文法・会話入門	Joan Dorado	月曜日	13：30 ～ 15：00
ビオレタ	文法・初級	橘川 万里子	水曜日	10：30 ～ 12：00
ヒラソル	会話・中級Ⅱ	Joan Dorado	水曜日	10：30 ～ 12：00
クラベル	会話・初級・Ⅲ	Joan Dorado	水曜日	13：30 ～ 15：00
セレス	文法会話・中級	栗山 由美子	土曜日	10：30 ～ 12：00
新聞雑誌を読む会	上級	栗山 由美子	土曜日	10：15 ～ 11：45

*会場は県民活動サポートセンター。

*開講日は原則として第1・2・3週の月3回です。但し、新聞雑誌を読む会（上級）は毎月第4土曜・1回です。

*問合せ先：スペイン語担当 牧瀬 貢

注：2005年1月・2月は県民活動サポートセンター庁舎の改修工事に伴い休講とします。

スペイン語教室紹介 第9回 「ロサ」

私達の“ロサ”は今年1月にABCから始まった入門クラスです。現在、受講生は女性ばかりの華やかな15名（男性大歓迎ですが）で、年齢層もセニョリータから熟年迄と幅広いメンバーです。過去にスペイン語の勉強の経験者も多くいますが、もちろん初めての方もおります。

エミリオ先生が、授業の合間に楽しい歌と共に、パッションを大切にした授業を心がけて下さっています。ABCの“基本”からしっかりと身につく授業でとても和気あいあいとしたクラスです。

（佐藤 恵美子）



▲情熱が伝わる授業風景

会員投稿

サルスエラ・フェスティバルを終えて サルスエラ『ラバピエスの理髪師』&『ガラ・コンサート』in 府中

—— 島田 ユミ子（日本サルスエラ協会代表） ——

6月15日、梅雨の晴れ間に強い日差しが差し込み、からりとして心地の良い朝、あたかもスペインの初夏が感じられた空気で一日が始まりました。長い稽古期間を乗り越え、この日の為に全ての時間を費やしてきた私たち一同は、自然豊かな美しい土地、恵まれた土壌の「府中の森芸術劇場」で本番を迎えました。全てが新しい事へのチャレンジと冒険であり戸惑いもある中、客席いっぱいのお客様の喜ぶお姿を想像し、取り組んでまいりました。

日本サルスエラ協会設立からわずか3年という短期間でハイライト版とは言え、音楽、舞踊、演劇が揃った形のサルスエラを日本で上演できた事は、歴史的にも非常に有意義であり、さらに私たち自身が、この現実には深く感動していました。そこには、今回芸術監督をしてくださったアントニオ・アロンソ氏の多大なご功労と舞踊団の皆様、塩田美奈子さんのご協力がありました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

そしてこの度の公演では、横浜スペイン協会の後援を頂き、また協会員の皆様から暖かいエールを頂きました事、大変感謝しております。本当に有難うございました。公演を終えた今も、多くの方々のお力がこの公演を実現に導いたのだと改めて感じております。

あの日、本番の舞台上では架空の時代、場所、空間である「ラバピエス」が実際に存在し、そこにはマドリードの青い空や小鳩たち、建物が見え、町の賑わいが聞こえているようでした。そんな空間を、何よりも舞台上の共演者、スタッフ、会場のお客様、そして作曲家。作品に関わった全ての方々と、この音楽を通して分かち合えた事が、私たちにとっての大きな喜びでした。



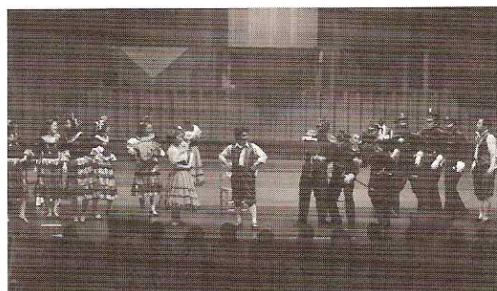
▲「ラバピエスの理髪師」 一幕より
～理髪師ランパリージャとお針子パロマ～

また、この公演を創っていく過程では、さまざまな経験と感動がありました。私自身が弱音を吐きそうになったこともあり、そんな時に若い協会員たちの明るさやパートナーの励ましにとっても助けられました。そして、日本でサルスエラを創り始めた「動機」、公演を実現させるための「行動」、作品への「愛」と、周りを思いやる「心」、こうした想いが身体や精神を支え、成功へと導いてくれました。今の時代で大切にしていかなければならない事を、サルスエラというポジティブなエネルギーのある音楽を通して伝えようと、皆で舞台を作っていたのです。

改めて思う事、“サルスエラ”という歌、芝居、舞踊が一体となった舞台芸術、このようなものが、他にあるのでしょうか。全ての分野がそれぞれ重要なポジションを占めていて、共にサルスエラの中で共存している。歌よりも舞踊……舞踊より演劇……ではなく、お互いのプロフェッショナルなもので一つの芸術を盛り立てていく。お互いが“歩み寄る”という小さな考えではなく、“分かち合う”という大きな器で芸術を創っているように思うのです。サルスエラはそんな“和”の舞台ではないでしょうか。歌う、踊る、表現する、この三つは人間として生まれてきて体験する魂の喜びだと思います。感性豊かなスペイン人が素直に表現して出来た芸術？“サルスエラ”の魅力を今後も、もっとももっとたくさんの方にご覧頂きたいと思います。

今は一人一人の大きなボランティア精神のもとに成り立っている活動ですので、大切に育てていくためにも土台をしっかりし、慌てず、焦らず、奢らずに参ります。大きな流れの中で今、自分に何が出来るかを常に問い、会員一人一人に問いかけ、進んで参りたいと思います。私は決して孤立することなく、独占することなく、皆様と舞台を創っていきたいのです。なぜなら、この働きは関わる事それだけで大きな歴史に携わり貢献していることになるほど、素敵な仕事だからです。心を大切にしながら進んでいるので時間がかかるかもしれませんが、それが貰けないのであれば、私の生きている意味、協会を設立した意味がありません。サルスエラが一番良い発展の仕方をしていく為にも、この理念は生涯崩すものでも崩されるものでもないのです。私たちの働きはブームを起こしているのではなく、ルネッサンス（復興）です。

今後も、若いエネルギーとフレッシュなパワーを発展させ、未来のサルスエラ創りにこの身を捧げて参りたいと思います。そして毎年楽しい新作を創り、レパートリーを増やしていきますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



▲「ラパピエスの理髪師」三幕よりフィナーレ
右からドン・ルイス、兵士たち、軍隊長、
ランパリジャ、パロマ、お針子たち

私のスペイン *スペインは多様の国です。それぞれの人の想いも多様です。あなたの想いは何ですか？

—— 会員投稿 ——

アンダルシアは今日も暑い

—— 谷本 啓子 ——

さあ、白亜のピソで暮らすぞ

昨年春、アンダルシアの小さな町で約3ヶ月、夫と暮らした。

「2、3日はホテルに。その間に何処か適当なピソでも探そう」と、何も決めずに日本を発ったのが桜の散る頃。ところが到着したその日に、大西洋が一望でき大家さんが日本びいきの白亜のピソに決めてしまった。そして3ヶ月、ここですっかりandalucesになりきって暮らしてしまった。

スペインの地図を広げると、有名なCosta del Solから西、ポルトガル寄りの海岸はCosta de la Luzと記されている。そう、ここは大西洋に面した「光の海岸」。そのピソは、古くから港町として栄えたCádizの西、Rotaという小さな町のその遥かはずれのcampoの中にある。近年この海岸沿いは、ヨーロッパの人々やマドリッド、セビージャの人々のvacacionesをあてこんで、コンドミニウムの建設ラッシュだ。でもすぐ隣には、広大な小麦畑やぶどう畑そしてひまわり畑が続いている。何とものどかな風景だ。

スペインに浸っていたい

ところで、「どうしてスペイン？」と聞かれると、困ってしまう。何か妙にあのラテンの明るいテンポが気になるのだ。スペイン語はさっぱりでも、CDやラジオから流れる音楽や会話に心がウキウキ。そう生理的に「どっぷりスペインに浸っていたい」のだ。

もともと山や海・旅の好きな私達は、会社を早期退職して世界各国で暮らしてみたい、と思っていた。そして私はただスペインで、「市場で買物をして、隣のおばちゃんとおしゃべりをして」というごく普通の生活がしてみたかったのだ。

とはいうものの、夫は「スペインかー………」と反応は鈍かった。

私達もandalucesに

さて、なんとかアンダルシアまでやってきたものの、最初の1ヶ月は?!と思うことが多かった。

2時から6時頃までは、barなどを除いて全ての店が閉まってしまう。ここアンダルシアの小さな町では、siestaの習慣がしっかり残っていた。食事の時間も、昼は2時頃からゆっくりたっぷり。6時頃は、まだおやつの時間。夜10～12時頃までが、レストランが賑わうディナータイム。ベビーカーを押し小さい子を連れた家族が、当たり前のように遅い夕食を楽しんでいた。

3ヶ月車を借りたが、広場や道に駐車しようとすると、すかさずおじさんが出てきて誘導してくれる。そして片手を出す。えーっ、ここは公道でしょ? 物乞いのおにいさんだって、明るい。煙草を吸っていた手をヒョイと後ろに隠し、残りの手で「煙草錢ちょうだい!」なんて言う。まったく。でも、何故か、どちらも愛嬌があって憎めない。

50ccの原付バイクに親子4人乗り、などというのを見た。2人や3人乗りは当たり前。誰もヘルメットなど被っていない。庶民は逞しいのだ。また、運転中の車が急に歩道の方へ寄ったかと思うと、知り合いの人と大声で話し込んでいる。でも後ろの車は、クラクションも鳴らさず話が済むのを待っている。お互い様さ、とみんな毎日の暮らしを楽しんでいる。

1ヶ月もすると日本の“規則正しい生活”が妙に堅苦しく感じ始め、心がゆったり解きほぐされていくのを実感した。そしてなんと私達も、昼間からビールやワインを飲んでゆっくり食事をし、太陽がジリジリする3時頃からはsiestaをし、涼しくなって夕食、そして散歩。時には、夜中の2時、3時までamigosと遊んで、とandalucesになっていった。

amigosは温かい

3ヶ月も暮らしていると、友達も沢山できた。アンダルシアは、フラメンコの本場。ある日、街角で花を売っている赤銅色の精悍な顔のおじさんに、「どこかで、canteを聞かせてくれる所はないか」尋ねた。すると彼は、「この辺では無いけれど、聞きたいならオレンチへ来いよ」と言った。偶然にも、彼は日本に何回か来た事のあるジブシーの歌手cantaor gitanoのミゲル(Miguel)だった。それから時々私たちは彼の家へ¡Hola, Miguel!とアイスクリームを持って遊びに行くようになった。昼間は街角の花屋のおっちゃんだが、夜時々聞かせてくれる彼の唸るようなフラメンコは心を揺さぶる。gitanoの血が、哀愁が、歌に凝縮されている。Miguelは夫をAmigo Toshiと言って凄く気に入り、帰国前には“amigoへ”と自分の歌を吹き込んだテープをプレゼントしてくれた。

他にも、畑で働いているおばちゃんが、「バーベキューやるからおいで」と声をかけてくれたり、借りたピソの大家さんが、セビージャを案内してくれたり、小さな通りで子供達が開いていた誕生パーティに、飛び入り参加させてもらったり、と数えあげればきりが無いほど、アンダルシアの人々の温かさに触れた。言葉は覚えなくても、お互い気持ちは通じる。やっぱり暮らして良かった、スペインで。

こうして、一斉に花々が咲き始めた4月から、広大な丘や畑をうめつくした向日葵が茶色になってゆく6月末まで、あっという間のスペイン暮らしを楽しんだ。

また行くからね

「きつとまた、みんなに会いに行くからね」との約束を、今年果たした。今年はあまり日程が長くとれなかったが、それでもアンダルシアのamigosに会いたかったので、6月下旬に10日程行って来た。Miguelファミリーも総出で再会の宴を開いてくれた。畑のおばちゃんも、隣町のおじいちゃんも、大家さんも、みんな元気だった。

そしてまた、私達は彼等アンダルシアのamigosから、沢山の明るさと元気をもらった。また来年も行くから待っていてね。Hasta la vista, amigos.

今、来年は少しはおしゃべりにも花が咲くように、と当協会のスペイン語教室に夫婦で通っている。さてどうなることやら。



▲3ヶ月過ごした白亜のピソ

//////////////// 新入会員紹介 //////////////////

清水 昭子 (Shoko Shimizu) 2004年5月1日入会

横浜市磯子区

アルゼンチンタンゴが大好きで、タンゴレッスンを通訳なしで受けたいのでスペイン語を習いたいと思いました。スペインも3回行きました。市場で買い物も楽しかったです。そして国民性も好きです。

***** INFORMACION *****

●協会の名称が「横浜スペイン協会」に変わりました

協会設立より14年間慣れ親しんで参りました「横浜スペイン交流協会」の名称が本年5月の定時総会で「横浜スペイン協会」と改称されました。スペイン語名はSOCIEDAD HISPÁNICA DE YOKOHAMAです。旧名称の略称である「AIYES」はこの協会がどのようなものであるかの象徴として、そのまま「愛称」として引き続き使用致します。この改称に伴い会員証が新しくなりました。なお、この会員証は協会主催のイベントや集会の際、ネームカードとして利用することがありますので、これらにご参加の際には、必ず持参してください。

●15周年記念「私たちのスペイン展」への出展のお願い

2005年6月20日(月)～26日(日)の1週間、「みなとみらいギャラリーB」で“私たちのスペイン展”を開催することが決まりました。写真・絵画・手工芸品の3部門で会員のみなさまの作品を、広く応募する予定です。詳しい募集要項はこれから決めてAIYES通信の2005年1月号でお知らせしますが、今から作品の準備をお願いいたします。

●第22回柳貞子さんのクリスマスコンサートFeliz Navidad…クリスマスに愛と平和を

日 時：2004年12月10日(金) 午後6時30分会場 午後7時開演

会 場：恵比寿麦酒記念会館(恵比寿駅東口徒歩7分、恵比寿ガーデンプレイス内)

共 演：柴田杏里、武井裕晃(ギター)

曲 目：鳥の歌、きよしの夜、ラ・ビオレテラ、ファリヤ作曲「ポロ」(7つのスペイン民謡より)、ビゼー作曲「ハバネラ」(歌劇「カルメン」より) 他

入場料：5000円(休憩時のビール、及びVALORチョコレートのお土産含む)

横浜スペイン協会員は1割引の特典があります。申込時にその旨お伝えください。

協 力：サッポロビール株式会社、横浜スペイン協会、スペイン音楽こだまの会

申込先：TEL&FAX 042-734-3569 e-mail:teiko.yanagi@nifty.com

柳貞子さんからのメッセージ：毎年「鳥のうた」に世界平和を祈って歌い、収益金を「難民を助ける会」に寄付しております。たのしい会ですし、たくさんの方にいらして頂ければ、それだけ多くを寄付することができます。おいでをお待ち致しております。

■会員訃報■ 下山 宏子さん

かねてより病氣療養中の下山宏子さんが、去る8月7日午前2時、逝去されました。

下山宏子さんは、下山貞明会長の夫人で当協会設立当時の会員であると同時に、会長がスペインへのさくら植樹に奔走されているさい、内助の功を発揮され、これを内側から支えられ当協会の発展にも大いに寄与されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

一賛助会員各社の会員サービス内容一

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市中区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	J R 目黒駅(東京) 徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
太陽海外航空(株)	東京都中央区京橋2-2-14 山陽アネックスビル	03-3281-2441	成田空港使用料の負担
日西商事(うさぎのいる島)	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

<編集後記> 創立15周年記念行事に向けての企画が動きだしました。さて自分ならどうするか、ぜひ皆様のご提案をお寄せください。みんなのアイデアで楽しい15周年を実現しましょう。これからもよろしくお願いします。

* 投稿寄稿宛先

横浜市青葉区
横浜スペイン協会会報係

次号の原稿締切は

11月13日(土)です。

投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。